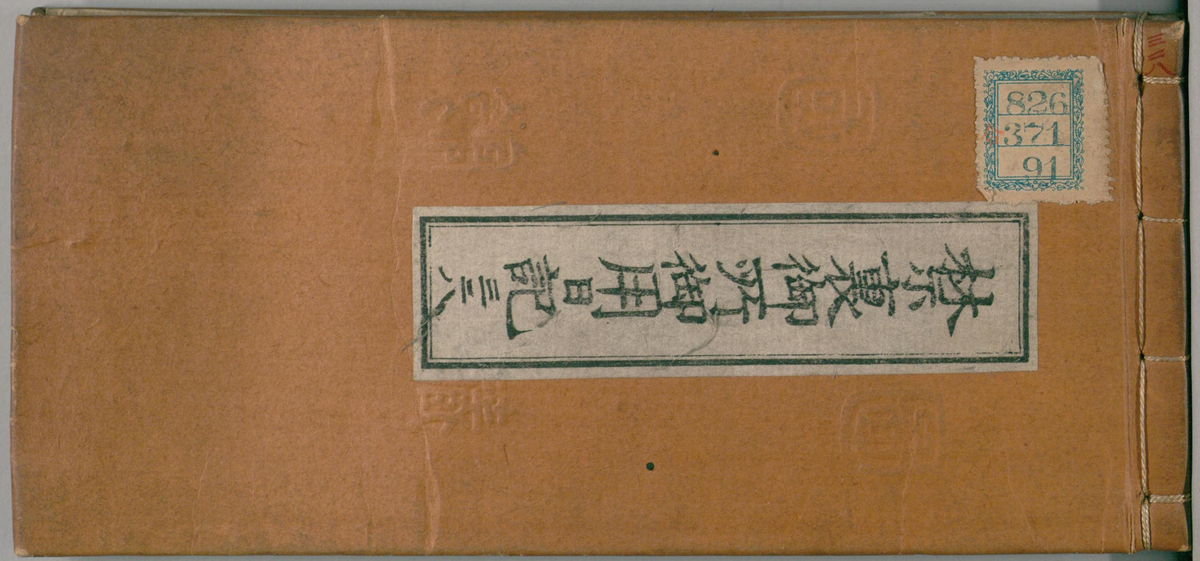
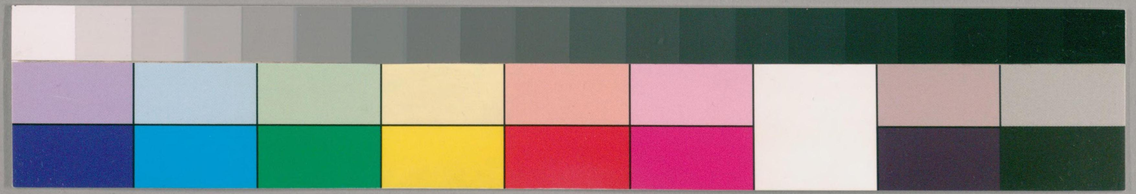
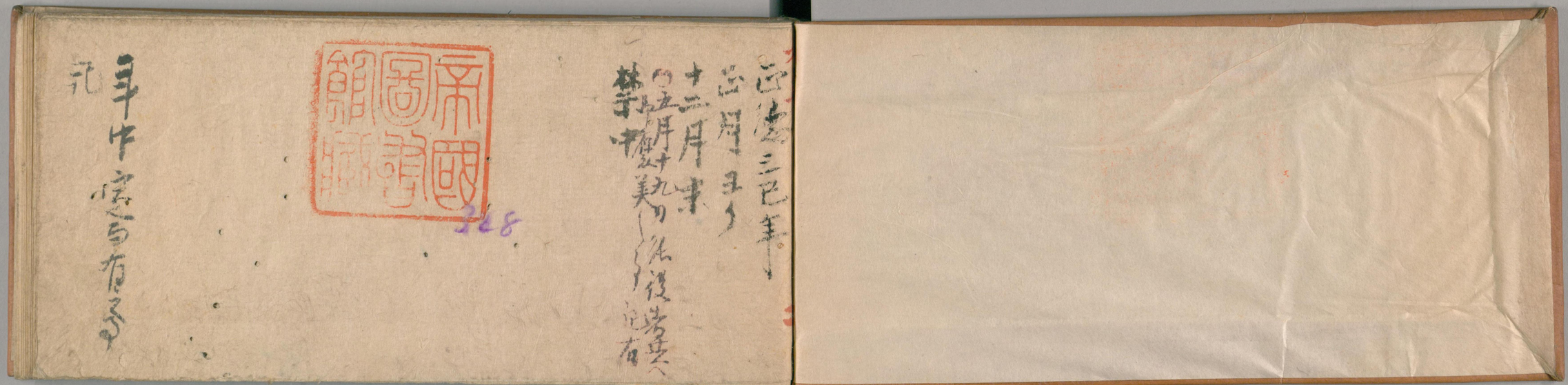




国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用

大正
6. 4. 13
購求

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用

年中定事 十二月 記洲

年中定事記洲

寛三正年
二月

元日菊花雄蕊御用之事

御太刀折紙被献之 山名左京亮
家次、金百疋之事

大正
6. 4. 15
請求

禁裏御所

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

暑帯祈禱祈請
右　岩倉ニ而
　　報系村中村

四日
　　市位方村ニ礼ニ参ル
暑帯祈禱祈請
右　京東辺九ケ村　惣代
　　東西堂十ケ村　惣代
　　下津林　役人

暑帯祈禱祈請
右　丹別宗七ケ村　惣代
　　下里野平六ケ

暑帯祈禱祈請
右　上ノ城十九ケ村　惣代
　　平屋村
　　村男村
　　平七

　　門ケ村　惣代
　　喘村
　　二六ケ

五日
一日歳徳ニ付村ニ而
儀養有之ニ付

千葉一日歳　東東ノ庭ニテ修行
一日歳ニ而　両度時ニ軒廊
猿舞ニ而　陰ニ而御印儀
長松屋ニ而　元次郎連ニ

六日
八剣村ニ而　相済ニ

七日
暑帯祈禱祈請
右　　宮原
暑帯祈禱祈請
右　和束ニ
暑帯祈禱祈請
右　　宮寺村
　　三ケ村

八日
御所ニ而御祓水不残ニ而
自今夜ニ三夜ニ而無夜ニ
昨日陰ニ而行事ニ而

九月

十月

十三日

栗引菓子

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

右人数ニ江漆ニて書之事雑ゟ
出候事有之

十四日
大元帥法 後七日御修法 結願

十五日 雨気曇
御斎畢て御庭打毬有之
毬数百廻 両度有之
出仕衆従人ニ赤小豆汁被下
一毎度ニ赤飯ニ而ハ無之
おこわ之事
一法勝院参内
一清涼殿階下
一御所仙洞御所ニ而
仕丁拵ル人出候事
一二条ゟ勅使

十六日
潤ゟ勅会 蓮花院
法勝院
一毎度ニ赤飯ニ而ハ無之
勅会ニ而ハ無之候ゟ
仕丁拵ル人出候事
一階花

十七日
雲交

十八日 雨ニ而延引
一両度ニ赤飯ニ而ハ無之

廿二日
一霖御持猶生剛一折二
樒紙江ち乃軸上

廿六日
一春儀参内雪下乃中人参
夜通甲斐ち服紗ち
一関白人参行
中太刀金ち長刀ち
沢持参入ち生姜乃
中ち青色帯一色黄一色
右動儀ち兵次ち義
於ち御学問ち間

二月朔日
一清涼殿朝一折二
夜御膳ち

二日
一節分ち口取ち
生剛一折二夜御膳ち

一闘鶏ち事乃儀間ち
時乃儀知帰ち

一宮乃内ち雲
兵次乃間ち庭ち法師仙
成参ち

十日
一牡丹乃ち大内乃人ち
召寄夜乃物乃中ち
青色乃装束ち

一上ち殿ち着座ち
青色乃ち御前乃
青色乃ち

七日
一長橋局ち乃内乃平絵付
中乃座ち兵次乃ち動ち

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

十月

一御能 能初日
後四刻

一権中納言 松平乗邑朝臣
対面 松平右京亮
旧冬同様

一勅使 一献 建部内匠頭
一生絹 一疋 富小路
一金襴 一巻 菅沼

一月 富小路

一生絹 一疋 小野

一饅頭 一折 小河原

左近将監 ノ事ヲ勅使ニ

一松平乗邑朝臣 参内
一院御所参 上り奏
天酒 肴被下 同座
一献ニ而 御能
御番衆 御相伴
御能 初日ニ而 後四刻
御能 相済 御退出

一松平乗邑朝臣 参内
一院御所参 上り奏
天酒 肴被下 同座
一献ニ而 御能
御番衆 御相伴
御能 初日ニ而 後四刻
御能 相済 御退出

一権中納言 達重朝臣
菅沼 定芳
一生絹 一疋 富小路
一金襴 一巻 菅沼
一月 富小路
一生絹 一疋 小野
一饅頭 一折 小河原

右之通 無滞相勤候事

十八日

一御能 観世
後面別

一指重ね組 対一折ヅヽ 松事ニ律寺
以前同様

一鷺一折 二度 建仁門迄ニ

一生鯛一折 叶屋

一干鯛 浜野 菅生ニ与

一同

一生鯛一折 小野木 富屋

一饅頭一折 小間ニ与

左江戸ノ事ヲ勅ニ

一松事ニ律寺ニ与 門ニ到

ハ慶御座ニ与 中ニ参ノ 中ニ参ノ

天江ニ改而ニ与 門ニ

菅生ヨリ勅ニ与

一御能ニ与 御ニ与

御ニ与 御ニ与

御ニ与 御ニ与

御ニ与 御ニ与

御ニ与 御ニ与

御ニ与 御ニ与

右ニ与 菅生ニ与

五月十九日
後者共へ御廻覧

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

十六日 晴 北風 寒氣 烈敷
一 御霊御供被進候ニ付 御使
勘一折ニ而 信志 市川筑前守
十七日
一 法皇様御誕生日ニ付 御祝
生鯛一折ニ而 淀屋橋
文七ニ而
一 年中到着之御進献書
記来月朔日之條ニ
御小刀之事 御書付之通
御奉書ニ而 御請
御礼申上候事
十八日
一 当番ニ付 早朝ニ御
服着座之上 大広間へ
罷出候事

十九日 朝曇
一 法皇様御誕生日ニ付 御祝
勘一折ニ 淀屋橋
文七ニ
一 年中到着之御進献書
記来月朔日之條ニ
御小刀之事 御書付之通
御奉書ニ而 御請
御礼申上候事
二十日
一 暁丑刻 宮様御葬送ニ

一通相済刻限次第ニ取上ル
　　長屋住之刑部
禁中様御禁壁之覚
一御壁延令　　壱ツ
　袋金襴紋菊桐裏ふき
　帛物添菜羽二重九服指四ツ
　上復一ツ表一行菊字菜宇
一御壁石上　　壱ツ
　袋茶地唐子織紋風凰裏ふき
　萌黄菜宇ノ浦笑帛物添
　羽二重九服指四ツ肩指四ツ
　上復一ツ表一行菊字菜宇
一御壁落津　　壱ツ
　白復房織裏ふき萌黄とじ
　紅緒袋純子菜宇ノ菊紋うら
　ふき萌黄浦笑帛物添
　羽二重九服指四ツ上復帛
　物添羽二重

一御壁細谷川　　壱ツ
　袋白茶地唐子裏黄浦色
　帛物添羽二重四ツ指ぐり
　ど上下表添羽二重
一御壁高階　　壱ツ
　袋茶地唐子風凰ふき紋浦笑
　裏萌黄菜宇ノ四ツ指上下
　表添羽二重
一新上御壁　　壱ツ
　袋四ツ指上指上表ふくれ
　ふき浦萌黄
一新上御壁　　壱ツ
　袋四ツ指上指上表ふくれ
　ふき又ふくれ第
　右之頭ハ上第ふく仕合ニ今ハ
　ふき御用ニ第ニ御壁指上ふき
　指ぐり指ぐり指ぐりニ一ふくれ仕上

廿九日

一申刻過後より雨降出ル

七月朔日

一清涼殿今日より出仕ス

一諸司諸院諸寺番衆退散

六日

一諸司院寺番衆退散

七日

一大内へ参内

一公家衆

一殿上人

一地下

一諸司

一諸院諸寺

一諸国

一法皇様へ今日より出仕ス

一法皇様へ番衆退散

一諸司諸院諸寺番衆退散

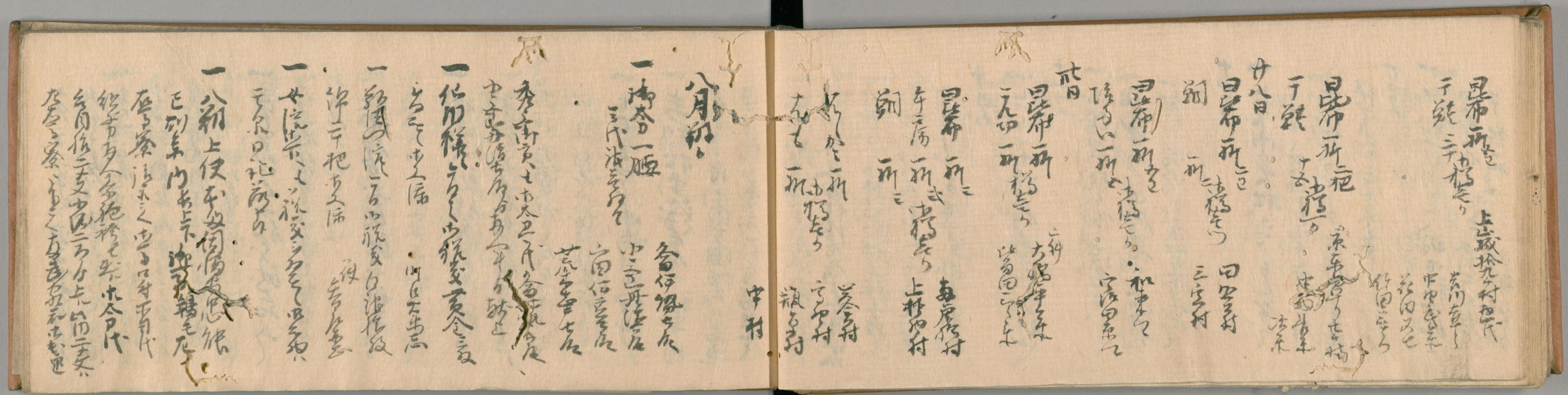
一諸国

一法皇様へ番衆退散

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

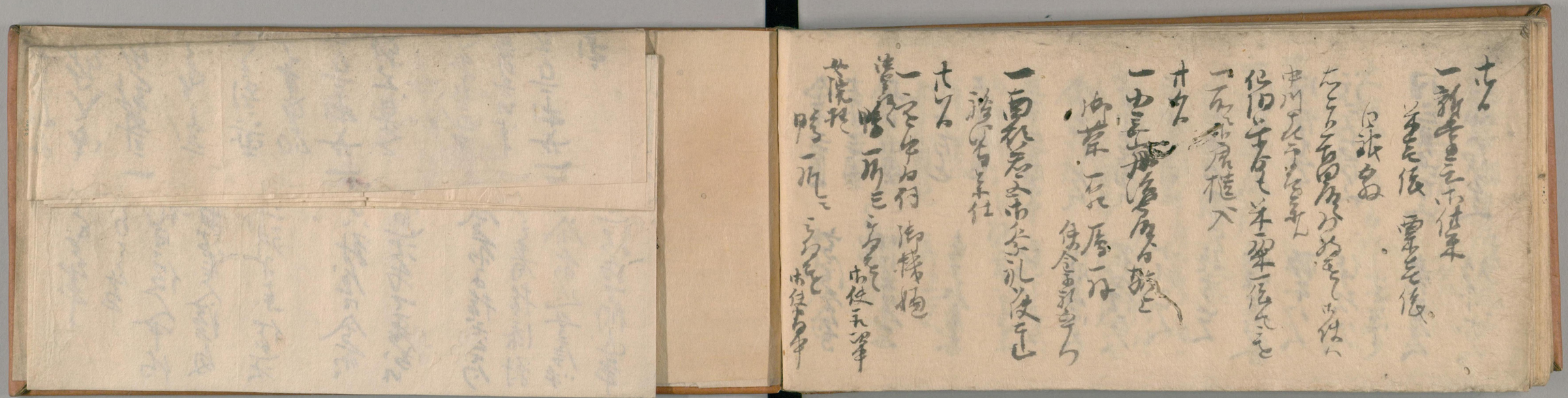
ガラス使用

一今日内侍所
清涼殿御拝 侍従宰相中将
書上方上雷天沢中下之通
一陣奏 或乱 次第同昨日
加中務卿伴
御拝 申刻
還幸 事了
陣奏 昨日
一御門 三献 未刻
夜ニ入 右衛門督
十二日
一常寧殿 御拝 如例
林檎 一献 左仗
十三日
一関白 初参 御進歌
一清涼殿 御拝 如例
一京都之間 心有御
[illegible] 今日 御拝
小庭 林檎 一献
御酒 如例
十四日
一七日 白馬節会 如例
十五日
一小豆粥 如例
一内侍所 御神楽 如例
十六日
一御弁 内侍所 朝
四郎 一献 如
于 一献 如



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

女院様
御一所ニ
御住居中

定

一 女中方病氣之時醫師并祈念者
并ニ出入之者不限昼夜ニ取次ニて彼門ゟ
御通り女房方并御局様ゟ女中并
御女中方ニ付御定之記

六三二

佐野伊賀守

加番壱人指添て廣敷ゟ出入せしむ
其余之侍ハ附ニ而相通候得共程之以
廣敷之用事ハ相達ニ可申事

一 長橋局対面所女房并下女共ニ
出入能々可限六ツ時并病人ハ
御用者常ニ相改様子能相定

武人相添干置ニて可申事
附之御用仕候やうニ可申事

一 長橋局対面所ニハ礼日ニ役人中向
中之義ハ此外一切無之人ニ而相通
壱人宛指添一列ニ其次
出入遣ニ相改可申

一 局付之侍并下男ハ対面所ニ
相詰用事有之候ハ〻使を以て申達
且又役者ハ局女子指添可相
附之侍又其下男ニ申聞着指添対
面所之下女共ニ達シ女房之
用事ニ付使ニて可相改事

附り指添ハ何も可為着用之

右之通ニて相勤事

一 長橋殿ニ而別段之様子之時分ハ
局之勤中侍并下女共ニ取次着

彼門之外ニ相通ニて可申事

一 諸商人諸職人諸色調物

定

一女中方病気之時醫師下并祈念者
其外諸事不限昼夜取次可披回候
若急次第入御時者指留申間敷
之者可被回候事
一女中方宿元へ為入御時者定番之者
壹人指添可被送候尤入御
無之候ハ、附頭へ可被申付候
序ニ御用事ハ相達候事
一長局向ニ而ハ御局方ハ女房ニ而下女共ニ
御入被成候ニ付限六ツ時ニ者病人ニ
不寄者共ニ而も決而御入被成間敷候
武人相添申間敷候事
附り御用ニ付御出之節ハ
一長局向ニ而ハ御局方ハ礼ニ而ハ御入被成
中ニ而候ハ、一切御入被成間敷候
一局方ニ而ハ御局方ハ御入被成候
相詰用事ハ一切ニ而可申候
里方ニ而ハ其筋ニ而ハ御局方ハ
附之侍又ハ下男ニ而も可申候
別ニ用事ハ一切ニ而可申候事
附り御用ニ付御出之節ハ
右之通可相心得事
一長局ニ而ハ御局方ハ御別段ニ而ハ
御用事ハ侍中ニ而ハ
後日ニ相成候ハ、附頭へ可申聞事
一諸事ニ付相願候ハ、附頭へ可申聞事

附り清書所勤之人ハ下ニ有之通可相勤事

一長橋殿ニ而別段ニ御雑煮之時ハ、
御末ニ而ハ無之侍中ニ而も其座ニ有
之者ハ為吸物ニ而ハ無之

一諸官人ニ而職人ニ而ハ無之
長橋局ニ而別段ニ御雑煮ニ而ハ
無之侍ニ而ハ無之

一祝儀之時之ハ為吸物ニ而ハ無之

一長橋局ニ而別段ニ御雑煮ニ而ハ
無之侍ニ而ハ無之

一近年御末女房衆気ニ入候
様ニ新参者ニ而ハ無之者不限
年数ニ而ハ無之侍ニ而ハ無之

一近年御末女房衆気ニ入候
様ニ新参者ニ而ハ無之者
ニ而ハ無之侍ニ而ハ無之

一御末女房衆ニ而ハ無之

陳人等不指出者ハ可被召寄事

一近江局并御末女嬬帝の寵愛の者ニ候間、毎人宛指添被置、勝手ニ無之附ても御末女嬬并下女共ニ毎人ニ壱人宛指添可被置事

一御末女嬬并下女共ニ毎人ニ壱人宛指添可被置事

一毎夜様子ニ依て武人相添可被置事

一猶毎人ニ被撰人猶色調ニ相応候ハヽ、近江局并御末女嬬帝の寵愛ニ候間、毎人宛ニ被置候ハヽ可然候事

一近江局并御末女嬬帝の寵愛ニ候間、毎人宛ニ被置候ハヽ可然候事

一猶毎人ニ被撰人猶色調ニ相応候ハヽ、近江局并御末女嬬帝の寵愛ニ候間、毎人宛ニ被置候ハヽ可然候事

一近江局并御末女嬬帝の寵愛ニ候間、毎人宛ニ被置候ハヽ可然候事

一猶毎人ニ被撰人猶色調ニ相応候ハヽ、近江局并御末女嬬帝の寵愛ニ候間、毎人宛ニ被置候ハヽ可然候事

一近江局并御末女嬬帝の寵愛ニ候間、毎人宛ニ被置候ハヽ可然候事

一猶毎人ニ被撰人猶色調ニ相応候ハヽ、近江局并御末女嬬帝の寵愛ニ候間、毎人宛ニ被置候ハヽ可然候事

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

826
な371
91

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用